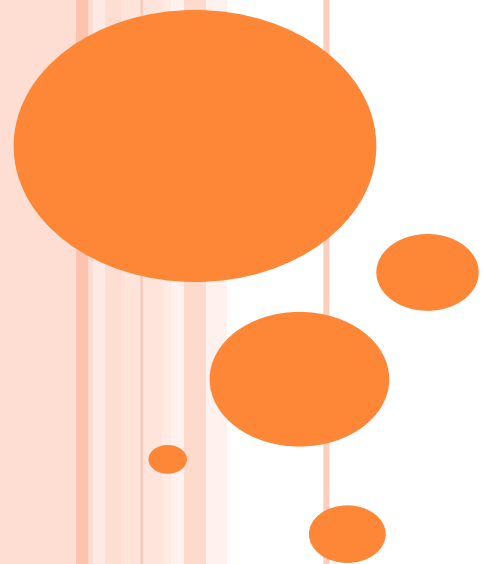


課題図書のあるレポート の書き方

プレゼンター

内川 隆文



こんなお悩みありませんか？

- うまく構造を決められない
- 書き出しや言い回しがわからない
- 要約しすぎたらコピペっぽくなった
- そもそも要約ってなに？

疑問に答えます！

良いスタートを切ることで時間のロスを失くせます！



レポートと感想文とのチガイ～

◆感想文

→言いつ放し

→自分が感じたことをそのまま書く随筆のようなもの

◆レポート

→言いつ放しはNG

→必ず《問い》,《答え》,《根拠》を添えなくてはならない

→今回はこのような「レポートの作法」についてのお話



今回想定するレポートの形式

◆「書評論文型」

→あらかじめ課題図書が指定されており、内容の要約と自分の意見を述べる形式

⇒今回はこっち！

◆「論述型」

→図書が指定されず、あるテーマにそって自由に意見を述べる形式

Ex)「動物に権利を認めるべきか否かについてあなたの考えを自由に展開しなさい」



何を書けばいいのか

①内容の要約

→全ての箇所をあますことなく書き写すこと

ではない！！

→自分の観点に基づきながら、論点を取捨選択

②評価

・取り上げた論点がなぜ重要か

→必ず根拠を添えること

・本書の未達成部分はどこか



書評論文型レポートの目次

I : はじめに

⇒ 筆者の意図、課題などを簡単に解説

II : 要約

⇒ 論点を取捨選択 & 簡単に解説

III : 評価

⇒ 取り上げた論点がなぜ重要か、自分の意見を述べる

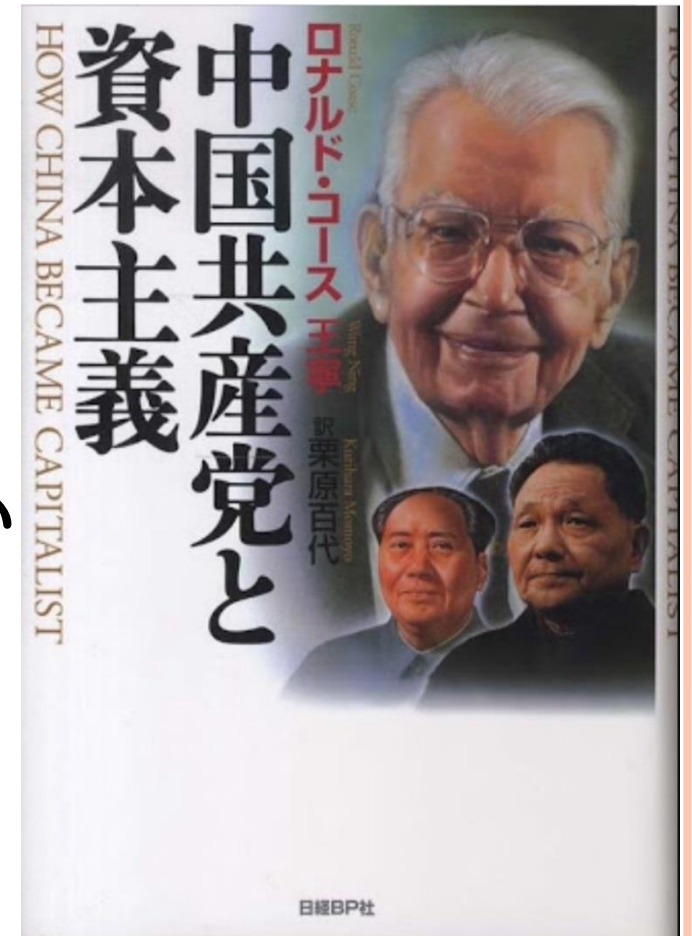
⇒ もちろん反論もOK



◆課題例

『中国共産党と資本主義』(日経BP社,2013)

要約をしたうえで、あなたの意見を論述しなさい



主な内容

中国が社会主義経済から現在の市場経済に移行した背景について、歴史的事実に基づきながら解説

⇒Point.1

中国はそもそもソ連のような中央計画経済ではなかった！

⇒Point.2

むしろ分権的な政治経済体制だった！

⇒その秘密は毛沢東時代に遡ることができる



◆ワークをおこないます

お手元に配布した文献を参照しながら、ワークシートに沿って進めていきましょう



I : はじめに

- ◆ 著者の意図や課題が書かれているところを見つけて、自分の言葉に置き換えて表現しよう

例) 「本章の課題は、～を考察することである」



I : はじめに

◆ 文例

「鄧小平の「第二次革命」は毛時代の「第一次革命」がやりかけた仕事を達成することを目的としていた。本章の課題は、鄧が克服しようとした第一次革命の欠陥と限界を考察することである」

◆ さらに「要約」に続く橋渡しの的なフレーズを添えれば完璧！

例) 「本報告では本章における主な主張と興味深い論点について考察する」



Ⅱ：要約

- もっとも重要であると思われる論点を箇条書きしよう
 - ⇒パラグラフごとに見ていく
 - ⇒頻出するキーワードをピックアップする
 - ⇒例)「分権化」「集権化」
- 余裕があれば各項目ごとに簡潔に要約してみよう
- よくある質問
 - ⇒Q: 本文と同じ言葉で書いてしまうと盗作にならないか
 - ⇒A: その通り
 - ⇒なるべく自分の言葉に置き換える作業が必要



要約の例

1: 集権化の時代(1953~1957)

→pp26-36(土地改革,中央計画経済,第一次五カ年計画)

2: 新中国下の反知性主義とアイデア市場の抑圧

→pp36-40(伝統的秩序の破壊、知識人弾圧,反右派闘争)

3: 毛沢東の分権主義

→pp41-59(人民公社,分権化,大躍進政策,文化大革命)



Ⅲ: 評価

- ◆「要約」で取り上げた項目の中から、重要だと思うものを1つ選んでください
- ◆それが重要だと思った理由を教えてください
 - ⇒ある論点が重要であると述べたうえで
 - ⇒その根拠をきちんと添えてこそ、「評価」となる



最後に・・・本物の書評論文を見てみよう

渡邊真理子(2015)

(『アジア研究61(2)』, pp.69-76)



まとめ

◆要約は文献の内容をまるごと書くこと、ではない！

⇒自分の関心に沿いながら、論点をピックアップする

⇒自分の関心の所在がどこにあるかを予め書いておくと吉

◆要約だけはNG！自分の意見を書いてこそレポートになる

Ex) ・取り上げた論点は何故重要か

→根拠を添えよう

・本書の未達成部分はどこか



◆参考文献

石井一成『大学生のためのレポート・論文の書き方』, pp36-41

